

インターネット世代の学生と大学図書館

図書館員と図書館組織について

長野由紀

はじめに

約 20 年におよぶ図書館をめぐる大きな変化に対応するため、図書館は施設や設備の充実、電子情報資源の契約と導入やサービスの再編成をはかってきた。

現在の大学生は米国では Digital Natives あるいは Net Generation Students といわれ、子どものときからコンピュータを使って遊び、検索技術もあり、Google を最大の情報源としている。しかし、情報爆発といわれる時代にあって、学生は新しいさまざまな学習資源を理解しているとはいえない。

図書館は学生がよりよい学習ができるようなサポートの経験を積んでいかなければならない。変化を学び、利用者と共に学ぶ図書館員と図書館員を育てる組織が必要である。

1 図書館関係者が 1990 年代始めにこれからの変化について述べていたこと

- ・「壁のない図書館」の実現で書庫としての図書館は地盤沈下してしまう
- ・図書館員が新しい現実に対応するノウハウを持っていないことに対する不安や危機感
- ・図書館は図書というモノを提供するところから情報を提供する機関に変わらなければならない
- ・図書館員は「書庫の番人」から情報提供の専門家となる

2 米国の Educause の提言

米国の Educause（1999 年設立、前身は Educom）は高等教育機関の情報提供を検討し、研究する行政者、教員、情報技術者、図書館員から成る専門家集団でさまざまな提言をしてきた。

- ・大学の情報提供政策が極めて重要
- ・情報担当の副学長や情報サービス部署を新たに設置
- ・教育における情報サービスの研究
- ・図書館と情報センターの統合案

3 日本の 1990 年代後半からの大学図書館の変化

- ・NACSIS WebCat による共同目録事業と総合目録の公開
- ・文献複写や相互貸借のシステム化
- ・大学図書館の施設の情報化
- ・データベースや電子ジャーナルの導入
- ・さまざまな電子図書館サービスの展開

4 ICUの新館建築計画

テーマ：印刷物と電子情報を統合して利用できる図書館

キャンパスで情報利用の拠点となる

建物： コンピュータ 120 台を置いたスタディエリア

新しい学習の「場」として、広い空間、快適な環境、グループ学習室、マルチメディアルーム

自動化書庫： 図書の管理、保存の省スペース、省力化、効率化

図書館員： 事務や管理業務を効率化し、指導や利用者サポートを強化する

5 新館の成果

- ・図書館利用者、貸出冊数ともに、30%増加
- ・学習の「場」として定着
- ・少ない館員で多くの仕事をする経験
- ・「図書館利用が減っているのは、必ずしも印刷物が電子形態に代わったためではない。学生のニーズをとらえた設計の新館や改修をした図書館の利用は伸びている」(Chronicle of Higher Education, Sept. 2005)

6 図書館員の専門性

- ・目録作成、選書、レファレンスなどであるといわれるが、それらの業務に精通することによって変化に対応し業務を再編成できること
- ・個々の大学図書館の使命を理解し、図書館サービスを新しい環境に適応させる技術や経験があること
- ・リーダーとなれること

7 レファレンス・サービスの変化(6の例)

第1期：レファレンス・デスクに代わる複数のサービス・デスクの設置

第2期：模索と試行の時期をへて担当者からの提案

第3期：レファレンス・サービスセンターを設ける

デジタル・レファレンス、オリエンテーション、授業のサポート

8 図書館組織の再編成

- ・情報技術の習熟
- ・フラットな組織
- ・全員参加の会議
- ・コミュニケーションの徹底と相互の信頼をつくる
- ・価値観の共有

9 専門職図書館長のメリット

- ・長期滞在型
- ・図書館員の専門性を理解し、その総意を教員や行政部に提案し、連携をはかる
- ・外部から目に見える形の成果を心がける：大学院進学、論文発表、ワークショップ、
大学基準協会の評価

おわりに：技術的な環境が整った今こそ図書館員の専門性を活かさなければならない

- ・インターネット世代の学生の利用指導、サポートの企画
- ・誰にも経験のない環境で新しい方向性を打ち出す責任
- ・外に向けた図書館員としての発言と活動